

## ● 今月の主な内容

- 100周年ニュース、イベント……………2～3ページ
- 少子化対応推進全国フォーラムほか……………4～5ページ
- 秋の全国火災予防運動、ごみ有料化にご意見を……………6～7ページ
- 市民のひろば、ご意見有用……………8～9ページ

[特集] ふるさとの森を訪ねて……………10～13ページ



木漏れ日を浴び、稲の匂いをかぎながら  
九州自然歩道を歩く「自然と歴史の探索会」の参加者

# 11月号

2002 November (No.624)

広報  
させぼ

11月1日発行



《市章》明治44年（一九一一年）10月制定。  
サセボの文字を組み合わせたものです。  
市名はサセボと読みます。

〒857の8585（市役所専用）  
長崎県佐世保市八幡町1の10  
佐世保市役所企画調整部秘書課広報係  
TEL 0956-11111 FAX 0956-2184

# ズームアップ

今月の話題  
手作りの装飾を楽しんでいる  
しっぽやき  
「七宝焼」



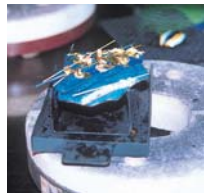
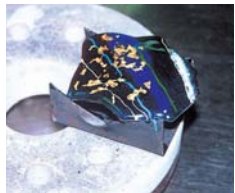
▲水でのばしたガラス質の釉薬で表面に色付けします

毎年11月に開催される相浦地区公民館まつりでは、七宝焼きの色鮮やかな模様のアクセサリー類が来場者の人気を集めています。代表の山下トキ子さんによると、活動開始は約10年前で、電力会社の出張教室が始まりだそうです。メンバーは、毎月第3土曜日の午後、相浦地区公民館に集い、試行錯誤を重ねながら個性的な作品制作を楽しんでいます。



▲釉薬で色付けした後、850～900度の窯で1分ほど焼きます

まず、釉薬の上から金ばくやビーズを飾ることもできます。窯の一部には、小さなぞき窓があり、中で銅板の表面が、乾燥した状態からひび割れ、溶解へと微妙に変化していく様子が見えます。でこぼこの表面が滑らかになったら、すぐに窯から取り出すのが肝心。窯に入れてからわずか一分ほどですが、タイミングを図る皆さんの目は真剣そのものです。講師の栗山奉文さんは、「失敗を気にしなくても良いのが特徴です」と、穏やかな笑顔で手作業を進めていきます。「一度焼いた後でも、気に入らなかつたら、上から塗り直すことも、色を加えることもできますから」と、重ね焼きのお手本を見せてくれました。また「窯で焼いた後は、釉薬の色がそのまま出るわけではないので、そこが面白い」と七宝焼きの魅力を語ります。



サツキの装飾品を制作することもあるそうです。メンバーが工夫を凝らした作品は、11月の相浦地区公民館まつりで展示（即売）される予定です。七宝焼きの魅力を探しに出掛けてみませんか。

主な手順と変化の様子

- 銅板の裏面にうらびき用の釉薬を塗った後、乾燥させる
- 表面に釉薬で色を付け、その上に金粉などを乗せる（表面には凹凸がある）
- 窯で焼く（金粉を含め、表面の凹凸が解けて滑らかなになり、漆のような光沢が出てくる）
- サンドペーパーで余分な釉薬を取り除き、アクセサリーの台に接着すると出来上がり

**テレホンガイド**

- 救急・火災
  - 医療機関案内 TEL 23・8199
  - 火災情報 TEL 0180・9999・9999
- 女性相談 (アルカスASEBO 2階・スピカ) TEL 24・6180
- 水曜・祝日を除く毎日、9～16時
- 教育相談 (青島年教育センター) TEL 22・0077
- 毎月第2、4木曜の17時30分～20時30分には、夜間相談も受け付けます
- エイズ相談 (保健所健康づくり課) TEL 20120・104・7833
- 健康テレホン (県保険医療協会) TEL 23・4300 ※3分間のテープで祝日は前日の内容が流れます
- ▼月々老化と誤嚥 ▼火い歩く▼下肢が痛い ▼水い起立性調整障害 ▼子どもの立ちくらみ ▼木い鼻つまり ▼金い口臭 ▼土、日い女性の再発性膀胱炎
- 観光テレホンサービス TEL 23・3130

**こちら広報係**

ウォーカーズパークから満場越まで行く途中、道を横切るアナグマに出会う。また、赤紫に熟したイヌビワをほお張ると、サツパリした甘酸っぱい味がしました。ちなみに食べられるのは、雌花からできた実だけです。(一)

「広報させぼ」は再生紙を使用しています。